

## 第2回 京田辺市産業振興ビジョン推進委員会工業部会議事要点

日時 平成27年7月3日（金）13時00分～16時30分

場所 京田辺市庁舎3階305会議室

### 【課題整理について】

- ・課題は、①担い手、②製品販路、③土地環境、④その他の4つにくることができる。
- ・「担い手」は、人材確保、人材育成・事業継承、創業・起業、全体・その他の4つが課題。
- ・「製品・販路」は、企業間の連携が薄い。背景には関連企業が少ないことがあげられる。大学、研究機関が立地しているが連携できておらず、既存企業の高度化ができていない。ものづくりのまちとしての色合いが弱い。
- ・「土地・環境」は、関西における立地はいいが、市内の交通利便性が悪い。公共交通機関が使える地域は渋滞している。土地の有効利用を図るべきではないか。
- ・市民や企業の災害対応は高まっているが、企業としての応援協力も図っていくべきではないか。災害時の情報共有は市民だけではなく、企業に対しても必要。

### 【キーワードについて】

- ・概ねワークシート記載のとおり。追加として次の項目を意識したい。
- ・工業を振興すれば公害で住みにくくなるのではという話もある。今の企業は環境への配慮に力を入れている。地元地域と共存できる形のビジョンがいい。そこを訴えていけるようなキーワードがいい。
- ・京田辺の工業の発展が、京田辺（全体）の発展に繋がる。（という方向でビジョンをまとめる。）

### 【方策検討について】

#### <人材確保>

- ・まちゼミを商業だけではなく、製造業者も一緒に実施できればいい。
- ・テレビで普段見られない工場の裏側を見せる番組がよくある。市内の工場見学ツアーをできないか。
- ・インターンシップの受け入れが可能な企業の情報をデータ化してインターネットなどで公開いただければ活用しやすい。
- ・高校生のインターンシップは大学生と違い、職業観を育むところから始まっている取り組みであるが、より推進すべき。大学生は同志社大学からの応募が少ないという話も出ていたので市内の企業を知っていただく機会を作っていくほうがいい。
- ・二世の経営者の集まりがあればいい。受け身で講師の話聞くのではなく、実践力を重視して、自発的にネットワークを構築した方がいい。
- ・〇〇塾やセミナーのような場は、知識を学ぶだけではなく、人脈構築の場にしてほしいと思っている。
- ・京田辺市にはD-eggという起業家育成施設がある。市としてはD-eggで育つ企業を市内に立地させたいと考えている。

#### <製品・販路>

- ・登録制の掲示板的なツールがあればいい。

- ・大きな展示会は多種多様で商談に繋がりにくい。テーマを絞って商品開発をするための情報共有が必要。展示会における集客戦略などで経験者の知恵を借りやすい。
- ・京田辺市のHPは、行政から企業への一方的な情報提供になっている。企業同士の関係を取り持つこともした方がいい。
- ・井の中の蛙ではなく、積極的に外で出ていく。イベントの参加も、義理、惰性ではなく有目的で出した方がいい。
- ・工業分野での一休品の創出とPRのところでは、京田辺には全国に発信できる工業品がない。「チェインのまち一休品」、「田辺高校の自動車」など、工業分野での一休品を作れたらと思う。
- ・売込み隊事業は主に展示会の出展だが、個々の企業の製品にまで踏み込んで売り込んでいければと思う。個々の企業の個々の製品の売り込みは行政では難しいので、コーディネーターがそういった役割を担っていければいい。

### <土地・環境>

- ・観光バスの運行。甘南備山、一休寺、普賢寺など、市内には魅力のある場所がある。そういったところをPRできれば。タクシーの活用もある。307号線のハード整備が不十分。
- ・駅前に人が集まる仕組みが作れないか。ナスやタケノコなどの特産品の情報が、市外から通勤しているだけは情報が全く入ってこない。定期的な駅前に集まれる発信源があれば。アンテナショップもほしい。
- ・大住と甘南備台のところで渋滞する。今のダイヤが需要と合っていないのではないかな。通勤時間帯にバスが発着していない。確かにバス会社の事情もあると思うが、通勤に的を絞ったダイヤ編成は無理か。
- ・市が文化施設構想ということで文化ホールを含む複合施設を計画中。できれば一角にビジネスホテルがあればいい。
- ・商業、工業どちらの意味でも「宿泊」というのは人を集めるということで大きな意味を持つと思う。
- ・未来のエネルギーである水素ステーションということで、近隣市町村と協力して誘致できないか。いきなり水素が難しいのであれば例えば天然ガスステーションというのものもある。

### <その他>

- ・地元になにか貢献したいと思っている企業が多い。今現在、市と企業との間では安心まちづくり室が中心となって応援協定を結んでいるが、その輪をもっと広げていければと。
- ・役所という立場では個別の企業に特化して支援するのは無理。とはいいつつも元気な企業をもっと元気に、というスタンスも重要。不特定多数を対象とするとぼやけてくる。基本は個別指導であると考えている。なかなか難しいかもしれないが、伴奏的支援ができないかと思う。
- ・交通などのインフラ整備は全体を考えなければならないが、企業支援は出来るなら個別でやったほうがいいと思う。